

## 中国山東省における河南省女性農民工と 現地女性労働意識の考察

—— 膠東地区の鎭鄒島を事例として ——

姜 婧

JIANG Jing

神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 博士後期課程

【要旨】 中国の民俗研究において、農村から漁村に移動する農村労働力に関する研究は極めて少ない。また、人口流動と現地における女性とのつながりという研究も非常に少ない。本稿では、漁村に流入する農民工が現地における女性の労働意識にもたらした影響を明らかにしたい。

「農民工」について述べる際には、まず中国の戸籍制度に言及しなければならない。現代の中国においては、都市人口と農村人口という分類がある。農村人口はすなわち農民、都市人口はすなわち都市民である。農民は農業を中心として暮らしている。狭義の農業は土地を利用し、有用な農産物を得る活動のことである。広義の農業には林業、牧畜業、漁業も含まれる。中国では都市と農村という二元的な管理構造は、戸籍によって区別されている。すなわち、都市戸籍と農村戸籍である。そのため、農民とは農村戸籍を持っている人の総称である。本稿では、山東省栄成市鎭鄒島地区に行く河南省女性農民工と現地における女性の労働に対する考察を通じ、現地の女性労働意識の現状と変化を捉えていきたい。

調査地において、「河南省女性農民工がなぜ鎭鄒島に行くのか」、「出稼ぎ時の考え方がどのように変化するのか」、「地元の女性の労働意識がどのように変化するのか」といった幾つかの問題点について検討したい。

本稿は、二つの部分から構成されている。第一の部分は河南省女性農民工に関することである。彼女らが鎭鄒島に行く動機やきっかけ、また河南省女性農民工の特徴について検討する。さらに彼女らが現地で差別されている現状やその表現、原因なども論じる。第二の部分は現地の女性に関する問題である。彼女らの労働量の変化および労働意識の変化を分析する。

鎭鄒島の村落を調査地としたこの研究が、全ての漁村の実情を示すわけではない。だが、この調査、研究はこれらに関連する課題について、一つの参考となり、また指標になるものと考えている。

An Observation of Women Migrant Workers from Henan Province and the Women's  
Labor Consciousness on Jiaodong Peninsular  
—— Take Moye Island in Rongcheng City of Shandong Province as An Example ——

**Abstract :** In Chinese Folklore Studies, related researches on “Rural labor force that go to fishing village to make a living” and “The impact of migration on local women” are quite limited. Thus, through research, the author attempts to go deeper into “the effect from rural labor force that goes to fishing village to make a living on local women”.

When it comes to migrant workers, there's one thing we have to mention: The Household Reg-

istration System of China. In the modern society of China, the population is divided into mainly two parts, and they are urban population and rural population, which is the same with the Household Registration System: urban and rural residence. The rural population actually refers to peasants, who lead agriculture-centered life. The narrow sense of agriculture is making use of land to get farm produce, while the broad sense of it also includes forestry, animal husbandry and fishery. The peasant is a general term that refers to the population who has rural registered permanent residence. This article, investigating the labor of the local women and the female migrant workers coming from Henan province on Moye Island of Rongcheng, Shandong Province, tries to make an experimental analysis on the labor consciousness of local women.

Questions like “Why does female migrant workers from Henan province come to this Island?”, “What changes of mind do they have while working?”, “What changes of the labor consciousness of local women happened?” etc, will be discussed.

Therefore, this essay mainly has two parts. The first part generally elaborates the reasons why female migrant workers from Henan province come to this Island, the features of them, and the reasons and manifestation etc. of the discrimination they experience. The second part mainly analyzes from two aspects: the variation of amount of labor and labor consciousness.

Although the result of the research based on the Moye Island may not fit for every fishing village, yet it still could, to some extent, locate and make up the deficiencies for the related study.

## はじめに

### (1) 流動人口研究の現状と問題提起

『中国流动人口发展报告 2010』によると、中国の流動人口は 1982 年の 657 万人から 2009 年には 2.11 億人まで増加し、大規模な「人口流動潮」<sup>(1)</sup>になったことが分かる（王培安 2010）。これに伴い、流動人口に関する研究も盛んになった。特に農村社会の人口流動、農村労働力の転移に関する研究は非常に多い。例えば、邱国珍は「从农民跨省务工看区域民俗文化的互动——以在温州务工的江西女性为例」で温州に出稼ぎに行った江西省の農村女性農民工を事例として、地域民俗の交流を論じている。農村女性農民工が出稼ぎの場と実家の間を行き来することによって、それぞれ異なる地域の民俗文化は互いに影響し合い、対立したり、融合したり変化したりすると指摘する（邱国珍 2003）。また張冬冬は「农村劳动力转移对我国农村经济发展的影响」で農村労働力を早めに転移することは、ある程度、農村経済発展を促すことができるが、人材は流出し、耕地も荒れたままになると述べている（張冬冬 2017）。中国では漁村は農村範囲に属する。だが、漁村がたとえ農村の一般的な特徴を備えていても、その環境、資源および生産様式などでは農村と大きな違いがある。そのため、農村社会における人口流動に関する研究が漁村社会に全て当てはまるわけではない。漁村社会における人口流動の研究は農村社会におけるものとは分けて独自に研究する必要がある。近年、漁村社会における人口流動についての研究は、徐々に注目されてきている。楊堅、韓興勇、宋立清らは漁村労働力の移動に関する論文を多く発表している。彼らの研究は、主に漁村労働力である漁民の生産転換、転職に対する原因と対策を分析したものである。例えば、韓興勇は「渔民就地转产转业问题与思考」で漁村と政府の両方面から漁民の生産転換、転職などに対する対策を論じている。その対策としては観光事業の

発展、海産物加工と販売の促進、政府からの資金面での支え、漁船の再利用などを挙げている（韓興勇 2006）。だがこれらの論文は漁村内部の労働力の問題を論じるだけで、外部から流入した労働力に対しては論じていない。劉潔の「海島漁村人口的社会流动研究」は、中国煙台市長島県を事例として次のように述べている。農村労働力は島の漁村に流入し、漁村労働力は都市に流出する。島の漁村社会における人口流動は非常に活発で、人口更新のスピードは速いと指摘する（劉潔 2014）。また、職業選択の面から見れば、多様性があり、自由に選択できる。そのため、人口流動の方向は自分自身の好みや意欲の他に、転職によって得られる社会地位が高く、収入が多い方に向かうことになる。先行研究では漁村における人口移動の理由、現象が解明されている、しかし、人口流動が現地の女性にもたらす影響については全く論じられていない。現在、農村から漁村に移動する農村労働力に関する研究は極めて少ない。また、人口流動と現地における女性とのつながりという研究も非常に少ない。本稿では、漁村に流入する農民工が現地における女性の労働意識にもたらした影響を明らかにする。

## （2）農民工の定義

「農民工」という言葉を述べる際に、まず中国の戸籍制度に言及しなければならない。現代の中国においては、都市人口と農村人口という分類がある。農村人口はすなわち農民、都市人口はすなわち都市民を指している。農民は農業を中心として暮らしている。狭義の農業は土地を利用し、有用な農産物を得る活動のことである。広義の農業には林業、牧畜業、漁業も含まれている。中国における都市と農村という二元的な管理構造は、戸籍によって区別されている。すなわち、都市戸籍と農村戸籍である。そのため、農民は農村戸籍を持っている人の総称である。「農民工」という言葉は誰がいつ使い始めたのだろうか。1983年に張玉林という研究者が初めて「農民工」という言葉を使用したという説がある（陳倩 2010：4）。2006年に中国農民工問題研究総報告起草組による「中国农民工问题研究总报告」（以下「報告」と略称する）が発表された。「報告」は「1984年に中国社会科学院の出版した『社会学通讯』で初めて「農民工」という言葉が唱えられた」としている。「報告」は「農民工」の概念を以下のように説明している。

农民工是中国社会经济转型时期的特殊概念，是指户籍身份还是农民，有承包土地，但主要从事非农产业，以工资为主要收入来源的人员。狭义的农民工，一般指跨地区外出进城务工人员。广义的农民工，既包括跨地区外出进城务工人员，也包括在县域内二、三产业就业的农村劳动力。

（「農民工」とは、中国社会経済転換期の特別な概念である。農村戸籍を持ち、土地を請け負うが、農業以外の仕事に携わり、給料を主な収入源とする人を指す。狭義の農民工は、地域を越え都市で出稼ぎする農村労働力である。広義の農民工は県内で第2、3次産業に従事する農村労働力も含んでいる——筆者訳）

今までの農民工に関する研究では、「農民工の概念と範囲」という問題について、ほぼ「報告」で述べた概念をそのまま使用している。例えば、陳倩の「空间流动及理性选择——金融危机背景下农民工迁移的行动逻辑」（陳倩 2010）、孟青山の「浅析工会开展农民工专项培训的模式」（孟青山 2010）、劉婷、李若横の「从二元结构的农民工到完整的市民个体——略论农民工积分入户制度的意义与作用」

(劉婷、李若橫 2014) などの論文の中では、「報告」の農民工の概念がそのまま引用されている。これらの論文は、都市で就職する農村労働力に関する分析を行っているため、「報告」の農民工の概念をそのまま引用することは問題ないと思われる。これに対して、本稿は農村から漁村へと仕事を求めて移動する農村労働力を分析対象としている。その場合、これらの農村労働力を「農民工」と呼んでよいのだろうかという問題が生じる。

農民工に関する研究では「差別」は重要な課題である。劉江橋は政治参加、結社、移動と住居の自由、人身の自由、教育の各側面から農民工差別を分析し、農民工の労働に焦点を当て、就業、報酬取得、職業安全、職業訓練、労働紛争処理の側面から差別・不平等の実態を指摘している(劉江橋 2015)。于洋は、農民工の社会保障の政策展開を分析し、「制度の不整合性」、「政府責任の欠如と高い保険料率」、「任意加入と低い加入率」、「低い保障水準と高い脱退率」を問題点として明らかにしている(于洋 2012)。現在の農民工に関する差別研究は、主に都市戸籍の有無による福利厚生や子女の教育などの方面についての研究である。また、これらの論文では、研究対象は主に学歴不問の左官、掃除労働、建築労働など、給料が少なく、作業がつらいうえにある程度の危険性がある仕事、例えば高層ビルのガラス掃除に従事する農民工を指していると思われる。しかし、「報告」では「農民工」の概念から見れば、また「農民工」という言葉はただ定義から見れば、差別の意味がないと分かるとしている。農村戸籍を持つと、大手で仕事をしている比較的高学歴のサラリーマンでも「農民工」の範囲に属することも分かっている。サラリーマンが農民工として差別されるのかどうかに関する研究はあまり見られない。ならば、差別される農民工たちはただ戸籍制度の原因で差別されるのであろうか。「从二元结构的农民工到完整的市民个体——略论农民工积分入户制度的意义与作用」には、2010年から、中国では、年齢、学歴の要求を符合すれば、農民工は都市戸籍に入ることができるようになったという政策に従って、多くの農民工は努力し進学した後、都市戸籍に変わったと論じている(劉婷、李若橫 2014)。「虽然学者普遍认为户籍制度是导致农民工在劳动力市场受到歧视的主要原因，但是我们不能忽略个体本身对农民工的偏见也会影响招聘方招聘时的选择以及提供的待遇水平(户籍制度が労働力市場では農民工に対する差別を引き起こす主要な理由であることは学者たちの普遍の見地であるが、農民工それ自体に対する偏見も招く時に会社の決定及び福利厚生に影響をもたらすということも無視されない——筆者訳)」と宋趙豊は指摘する(宋趙豊 2010)。そこで、農民工が差別される原因は戸籍制度だけではなく、様々な原因があるといえる。

そして、ただ概念を言うと、農村から比較的富裕な漁村に流入した農村労働力は農民工の範囲に属するのであろうか。

劉潔は次のように指摘している。

「流入人口中有很大一部分是从外地农村流入海岛渔村……流动类型为我们展示了一种不同于“进城谋生”的新型流动路径(流入人口の多くは農村から漁村に行ったものであり……農村から漁村に流入することは、都市に行き就職することとは全く違う新しい人口流動形式だといえる——筆者訳)」

しかし、劉潔は農村から漁村に流入した農村労働力に関する定義をしなかった。

胡偉略は「怎样看待沿海地区的人口涌入」の中で、人口が沿海地区に流入するのは、経済的原因によると指摘している(胡偉略 1998)。調査によれば、確かに胡偉略が述べたように、農村労働力が漁村へ流入する理由の一つは経済的要因であることが分かる。農村経済の発展は遅れているため、農民



は経済が比較的発展している漁村や都市で就職する。したがって、筆者は「農民工」という概念を次のように考える。「農民工」とは経済が発展していない農村から経済の比較的発展している地区（漁村、町、都市を含む）へ移動し、雇用関係によって給料を主な収入源とする農村労働力である。この点から見れば、ただ概念を言うと、彼らは地域を越えて出稼ぎする農村労働力であり、「報告」の農民工の概念とほぼ符合している。即ち 1) 彼らは農村戸籍を持ち、土地を請け負う。2) 彼らは漁村で漁業に関する仕事を行っているが、あたかも工場で働いているように、雇用関係を結び、給料を主な収入源としている。そして、このような漁村に流入した農村労働力は農民工の一部だと筆者は考える。

### (3) 研究方法

まず、流動人口、農民工、漁村に関する文献資料を収集し、先行研究の検討を行った。そして、フィールドワークを中心として現地調査を進めた。その際に「河南省女性農民工はなぜ鎭鄆島に行くのか」、「出稼ぎのときの考え方がどのように変化したのか」、「地元の女性の労働意識がどのように変化したのか」などについて聞き取り調査を行った。さらに、文献資料で不十分な点について、河南省出身の女性農民と女性の村民に対して、個人史の聞き取りとアンケート調査を実施した。河南省出身の女性農民は、文字を使う機会が少なく、読むことも困難である。そのためアンケート調査は一人ずつ、インタビューしながら、集めたものである。女性の村民は、本稿の内容を調査したその時に島外に行かず村にいた計 127 名（表 3）を指す。これら 127 名の女性に対して、一人ずつにインタビューし、聞き取り調査を行った。河南省の女性に対する態度や、教育レベルや、現在の労働現状などを調査した。

本稿では主に河南省の女性農民工を研究対象とする。鎭鄆島に來た河南省女性農民工は差別されるのか、またどのように差別されるのかなどの問題を明らかにしたい。だが、実際には河南省農民工以外に東北地区からの人も存在する。島にいる東北地区の男性は、ほぼ遠洋漁業に従事している。一方、女性は海の仕事より都市部で小商いをしたいと考えている。それは海の仕事が重労働で、きつい仕事のためである。このような事情からすると、東北地区から來た人たちは、現地女性の労働意識になんら影響を与えていないと思われる。そのため本章の対象から除外した。

### (4) 語彙

「村民」、「島民」は日本語では「村の住民」、「島の住民」ということになると思うが、本稿では「島の村に戸籍がある」従来の住民のみを指し、島の村の住民ではあるが戸籍のない外来者を含めていない。

## I 調査地の選定

### (1) 調査地の概況

鎭鄆島は榮成市の東南部に位置している。三面を海に囲まれ、東部と南部は黄海で、西部は石島湾に接している。石島港からは約 2.5 km 離れている。島内の地勢はほぼ平坦で、緩やかな丘がある。



図1 鎮鄒島の地図上の位置  
(出典：山東省地図〔星球地圖出版社 2019〕)

西部は海で形成される平原であり、東部と南部の海岸線は曲がりくねって、暗礁が散在している。平均気温は12.1℃、降水量は年間165.7 mmである。鎮鄒島は海産物の養殖と生産を中心産業としている。島西庄村、南洼村、西道村、島西構村、呂家庄村、劉庄村、島東構村、金庄村、後海崖村の計九つの自然村を包括している。

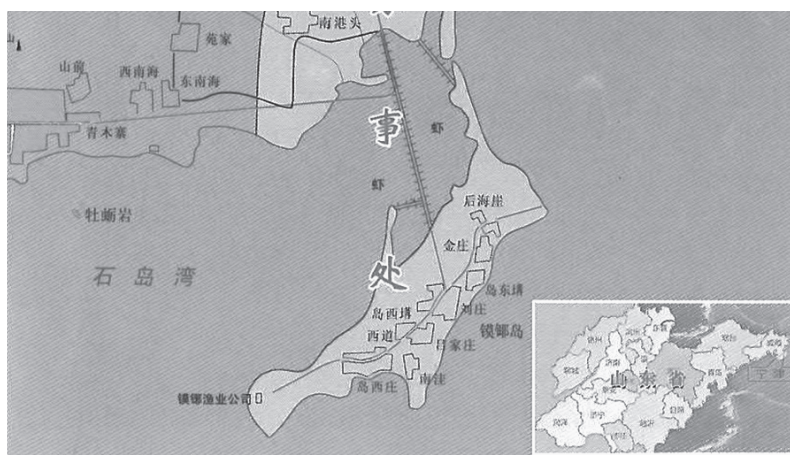


図2 鎮鄒島の地図 (出典：榮成市寧津街道轄区図〔威海市新聞出版局 2008〕)

## (2) 調査地の選定条件・要因

第一に、調査地は小さな社会単位であること。費孝通は「民衆の生活について集約的な研究を行うには、小さな社会単位の調査に限定することが必要である」、「調査対象となる民衆は、調査者が個人的に親しく彼らを観察しうるために、調査者の目の届く範囲内にいなければならない。民衆の社会生活の正しい断面図を提供するものでなければならない」(費孝通 1987: 25) と述べている。鎮鄒島の面積は8.05 km<sup>2</sup> と、調査地に適した大きさである。鎮鄒島は単純な社会関係、経済活動、ある程度の政治自治権を持ち、外部との連絡は少ない。そのため、複雑な構造を持つ大規模(数百万人以上)な社会に比べ、各方面は相対的に簡単な構造となり、全体的に把握しやすくなる。鎮鄒島は耕地が少なく、漁業を中心産業としている島である。そこで、鎮鄒島は小さな社会単位というだけではなく、小規模漁業の社会でもある。秋道智弥は「経済的な観点から小規模漁業をみると、個人操業から家族あるいは小集団(多くても10人~20人程度)による操業形態、機械化・動力化の程度の低い漁具・漁法の採用、手漕ぎのくり船から通常5トン級までの小型漁船の使用、資本蓄積の低い経営、低生産高と低所得などをその特徴としてあげることができる」(秋道智弥 1996) としている。鎮鄒島は恵まれた海洋資源によって、漁業がきわめて発達した地域に位置している。楊国楨によれば、直接的あるいは間接的に漁撈活動などの海洋活動に参加する際には、島民と海、島民の間にさまざまな関係が組み合わされ、一つの海洋社会が形成されるという(楊国楨 2000)。漁業といえば、一般に男性の労働

であると思われがちである。だが、鎭鄆島では昆布を干す労働や、テングサの苗をロープの隙間に挟む労働などは女性に任せている。さらに船に乗り網を使い、海に出る女性もいる。漁業における女性労働は決して軽視できない存在である。

第二は調査地の言葉が理解できることである。中国では、地方ごとに方言がある。方言の存在はフィールドワークを行う際に、調査を困難にさせかねない難点の一つである。その方言が理解できないと、村人に対する聞き取り調査もできない。また重要な資料も手に入れることができなくなる。鎭鄆島は筆者の生まれ故郷の栄成市に属しているため、筆者は鎭鄆島の方言を理解できる。それ故、この地域の方言を学ぶ必要もなく、通訳も必要としなかった。それだけでなく、鎭鄆島の人と同郷であるということで、島民の信頼も容易に受けることができた。そこで、より深いインタビューが可能となり、資料の収集に困難さを感じることもなかった。

費孝通は「このような小さな社会単位についての集約的な研究から引き出される一般論は、他の単位には適用しえないかもしれない。しかし、他の地域でのより一層の調査への仮説として、あるいは比較材料としては使うことができる。こうしたやり方こそ、真に科学的な一般論を獲得するための、もっとも堅実な方法なのである」(費孝通 1987:26)と述べている。まさに費孝通のいうように、調査地が中国の全ての農村を代表するわけではない。かといって、調査地が社会全体から離れて単独で存在したり、他の社会や組織と全く違ったりするものでもない。この鎭鄆島の村落を調査地として選んだ研究が全ての漁村の実情を示しているものではない。しかし、この調査、研究はこれらに関連する課題について、一つの参考となり、また指標になるものと考えている。

### (3) 鎭鄆島の生業概況

#### ① 農業

解放初期まで、鎭鄆島の土壌は塩分を多く含み、白菜などの野菜を植えることができないと島民は信じていたため、トウモロコシと小麦以外の農作物は植えなかった。島内にはいつも「三不足」、即ち、野菜、食糧および薪が欠乏し困窮する事態に陥った。大晦日の食事を用意する時、一個の白菜でも、船を乗り石島へ買いに行かなければならなかった。1963年、鎭鄆島郷が成立すると、鎭鄆島郷政府に勤めていた劉家営という人は、島内に白菜を植えることができないということが信じられず、自ら島で白菜の栽培を試みた。結果的に、白菜の育ちはよく、大きな収穫があった。そのため、島民は白菜だけではなく、他の野菜も植え始めた。現在、島内の農事暦は以下の表1のようになる。

4月から農業を始める。ジャガイモ、春インゲンなどを植え、春トウモロコシなら穀雨の時に植える。ジャガイモは6月、春インゲンは7月、春トウモロコシは9月に収穫する。レタスを植えると、一カ月短い時間で収穫できるため、一年中何回でも植えることができる。5月にトマト、唐辛子、春サツマイモ、大豆、春ピーナッツなどを植える。トマトと唐辛子は7月、春サツマイモは9月、大豆は10月、春ピーナッツは10月の初旬に実る。6月に秋トウモロコシ、秋インゲン、秋ピーナッツ、秋サツマイモ、コーリャンを植える。秋インゲンは9月、秋ピーナッツ、秋サツマイモ、コーリャンと秋トウモロコシは10月に成熟する。立秋に大根、白菜、チシャを植える。大根は立冬、白菜は小雪に収穫し、チシャは翌年の6月に収穫する。エンドウは秋分に植え、翌年の6月に収穫する。10月にニンニク、小麦(10月上旬)、アブラナ、ほうれん草、玉葱を植える。ニンニク、小麦、アブ

表1 鎮鄒島の農事暦

月	植える農作物	収穫する農作物
3月		ほうれん草
4月	ジャガイモ、春トウモロコシ（穀雨）、春インゲン、レタス	アブラナ、玉葱
5月	トマト、唐辛子、春サツマイモ、大豆、春ピーナッツ	レタス
6月	秋トウモロコシ、秋インゲン、秋ピーナッツ、秋サツマイモ、コーリャン	エンドウ、チシャ、冬小麦（6月20日前後）、ジャガイモ、ニンニク
7月	レタス	トマト、唐辛子、春インゲン
8月	大根（立秋）、白菜（立秋）、チシャ（立秋）	レタス
9月	エンドウ（秋分）	秋インゲン、春トウモロコシ、春サツマイモ
10月	ニンニク、冬小麦（10月の上旬）、アブラナ、ほうれん草、玉葱	大豆、春ピーナッツ（10月の初旬）、秋トウモロコシ、秋ピーナッツ（10月の末）、秋サツマイモ、コーリャン
11月		大根（立冬）、白菜（小雪）

（筆者作成）

ラナ、ほうれん草、玉葱とエンドウ、チシャと同じく、寒さに強く、翌年に成熟する。島民にとって、農業に関する重要な時点は二種類あり、即ち節気および小麦の栽培と収穫の時間である。例えば、春トウモロコシ、大根、白菜、エンドウ、チシャは節気に関係がある。秋トウモロコシ、秋インゲン、秋ピーナッツ、秋サツマイモなどは冬小麦を刈り入れた後に植える。大豆、秋トウモロコシ、秋サツマイモなどは冬小麦を植える前に収穫する。栄成市の市区周辺の農村なら、6月10日前後に冬小麦を刈り入れる。それに対して、鎮鄒島では6月20日前後に冬小麦を刈り入れ、市区周辺の農村と比べると、冬小麦の刈り入れる時間が少し遅い。

## ② 漁業

鎮鄒島は漁業で有名な島である。1931年の山東省漁業調査では、「山东位于东角之端，港岛最多，沿海居民全数以渔为生活。石岛之东有镇鄒岛，南为大鱼岛，皆为产鱼最多之港岛（すでに1931年に栄成市は、島と港が中国国内で最も多く存在する場所となり、沿海住民のほとんどが漁業で暮らしを立てていた。なお、東南部に位置している鎮鄒島と大魚島は魚介類の最も豊かな産地であった一筆者記）」と述べられている（栄成市志1999）。

聞き取り調査に従って、鎮鄒島の漁撈歴を作る（表2）。島内には「谷雨找鲅鱼」という諺があり、穀雨（4月20日前後）になると、サワラの漁期になるという意味である。鎮鄒島でのサワラの漁期は4月～6月の間であり、5月から、サワラの魚群は渤海水域へ産卵に入る。漁民に対する聞き取りによると、穀雨になると、サワラだけではなく、魚介類はほとんど漁期に入り、秋の9月には回遊し帰る魚群で秋の漁期を形成する。『膠州志』に「谷雨时网之，动以万计（穀雨の時には網で一万匹でも捕れる——筆者記）」と記載されている。例えば、ボラ、キグチ、鮫鰯とクルマエビは穀雨からの4月と5月と秋の9月と10月に特に多くいる。ヒラ、タチウオ、サルエビの漁期は穀雨からの4月と5月である。

鯛は現地で「老婆髻子（老婦のおさげという意味）」と呼ばれ、漁期が3月～5月である。鱸の漁



期は5月から10月までと期間は長い。鯖の魚群は旧暦の3月に北上し始め、鎭鄒島の5月中旬に漁期になる。『牟平県志』に「春季以此魚為出產大宗」（于清泮 1936）という記載から、春は鯖がかなり豊漁だと分かる。鰻は漁撈量がすでに減少し、漁期は9月～11月である。サッパは体の厚さが脊柱とほとんど同じく薄いので、現地で「脊板子」と呼ばれ、年間を通していつでも捕ることができるが、産卵期のため7月に特に多くいる。10月、ワタリガニの旬に漁民は籠を利用しながら蟹を捕る。7月10日からの一カ月で、エチゼンクラゲとビゼンクラゲが鎭鄒島海域に入る。7月はまだ漁を禁止する時期であるが、エチゼンクラゲとビゼンクラゲを捕ることは許されている。

表2 鎭鄒島における漁撈暦

月 漁撈物	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
サワラ				✓	✓	✓						
ボラ				✓	✓				✓	✓		
鯛			✓	✓	✓							
鱸					✓	✓	✓	✓	✓	✓		
鯖					✓							
鰻									✓	✓	✓	
サッパ							✓					
ヒラ				✓	✓							
キグチ				✓	✓				✓	✓		
タチウオ				✓	✓							
鮫鰾				✓	✓				✓	✓		
ワタリガニ										✓		
エチゼンクラゲ／ ビゼンクラゲ							✓	✓				
サルエビ			✓	✓								
クルマエビ				✓	✓				✓	✓		

(筆者作成)

## II 河南女性農民工の来島

### (1) 来島の理由と目的

河南省の人口は、中華人民共和国統計局のデータによると、2015年時点で、9480万人である。そのうち、都市人口が4441万人であり、農村人口が5039万人である。農村人口が都市人口より多いことが分かる。

河南人 W さんによると、2000年には、紅山廟村の村民たちは、まだ農業を主業として、時々日雇い仕事をしていたという。農民工として村外へ仕事に行く村民は少なかった。2000年からは、単に農業だけで村民の生活需要を満たすことが、困難になってきた。農村では仕事の機会があまりないので、村外で仕事をする人が徐々に多くなってきている。河南省は人口が多いために、近年、全国的な範囲に河南省の農民工の分布が広がっている。

河南省女性農民工の中で、最も早く島東構村に来たのはDさんである。Dさん（55才）は河南省



写真1 河南女性の諸相（撮影者：汲長飛）

の押崗という小さい村に生まれた女性である。16歳になると、同村の16歳のLさんと結婚した。『中華人民共和国婚姻法』の第六条によると、結婚できる年齢は、男性が22歳で、女性が20歳である。そのため、2人は結婚証明書を作ることができずに、ただ簡単な結婚式をただけだった。結婚した翌年、息子が生まれてから、Lさんが農作業をし、Dさんは子供、両親の面倒をみていた。Lさんは22歳にな

ると、2人の結婚証明書を作った。娘2人がいた。1995年に、Lさんは広州で農民工として仕事を始めた。1996年、Lさんは広州で仕事していた農民工の女性と恋をしたため、Dさんと離婚した。農作業で1年の収入が何百元もあった時代だったため、Lさんの給料が家族の経済源だったといえる。離婚した後、Dさんと子供3人は実家に戻り、両親と一緒に住んだ。離婚により、経済危機に陥ったDさんは、子供と両親にもっと良い生活をさせようと考えた。そして、農民工になるために、島東構村に来た。

島東構村に生活している河南省の人は32人である。そのうち、男が10人、女が22人（図4）となっている。彼らは全員、河南省の農村から来た農民工である。河南省出身の女性たちのうち、中学校を卒業している人は1人、小学校のみ卒業という人は12人であった。今回調査できた女性農民工の人数は18人である。4人が聞き取り調査を拒否した。アンケート調査の「来島の理由と目的は何ですか」という質問に対し、「お金を稼ぐ」、「離婚」、「友達が島東構村にいる」などの答えがあった。「お金を稼ぐ」と回答したのは18人、すなわちアンケート調査に参加した全員である。「離婚」と回答したのは5人、「友達が島東構村にいる」と答えたのは6人であった。「友達が島東構村にいる」という答えは、友達に島東構村を推奨され、誘われたから来島したというものである。島東構村を推奨する理由は、島東構村にはお金を稼ぐ機会があるからである。「離婚」と答えた5人はDさんと同じで、経済的な理由で島に来た。お金がなければ、子供と両親を養育するのは無理だと彼女たちは、よく分かっている。良い報酬をもらい、将来の良い生活を送るために、言い換えれば、彼女たちは「お金を稼ぐ」ために来島した。

## （2） 来島のきっかけ

現在、島東構村で生活している河南女性は、主に三つの村から来た人たちである。すなわち、押崗、立崗、紅山廟である。押崗に生まれたDさんは、鎭鄧島で仕事したことがあるXさんから鎭鄧島には仕事の機会があるという情報を手に入れ、2003年に鎭鄧島に来た。「初めて故郷を離れたとき、涙が止まらなかった」とDさんはいふ。海水養殖が盛んな鎭鄧島では、働き手が必要だ。昆布の植え付け、昆布の収穫、漁民がとった海産物の売買など、たくさんの仕事の機会がある。彼女は一生懸命に仕事をすると、1カ月の給料が農作業の1年間のお金より多いと気付いた。正月に、彼女は

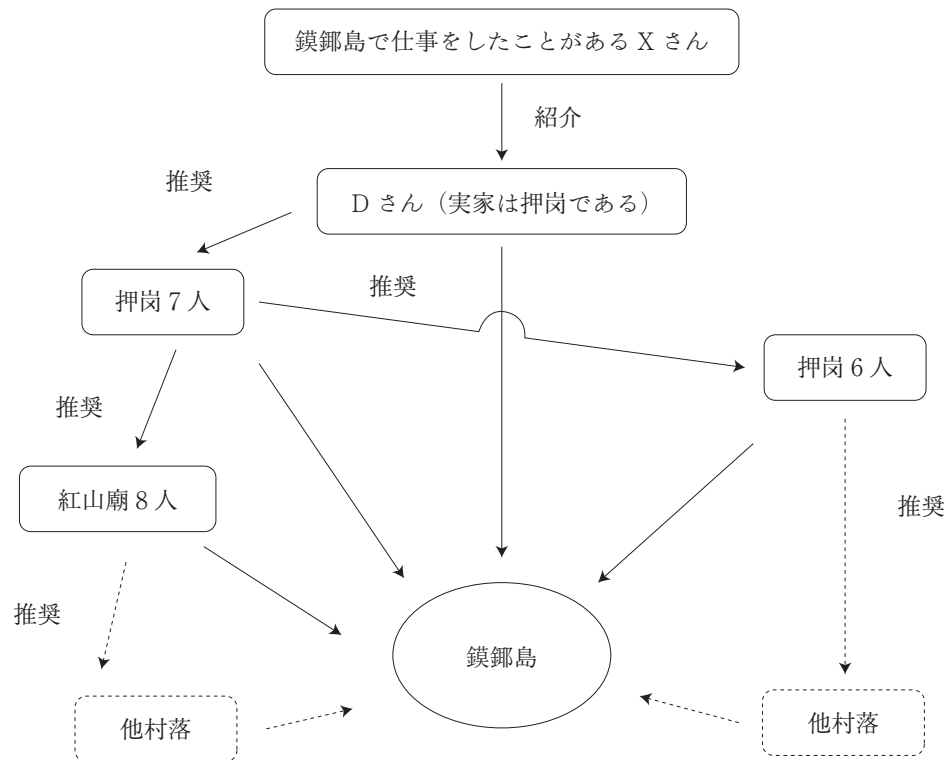


図3 情報ネット（筆者作成）

実家に帰り、村の他の女性に漁村の生活を推奨しながら、彼女と一緒に漁村に仕事に行こうと誘った。押岡に住んでいる D さんの親戚と友人を含む 7 人が D さんのことを信じ、D さんと一緒に鎭鄕島に行った。7 人は島東構村で仕事した後、今度は、自分の親戚と友人に鎭鄕島のことを推奨しながら誘う。つまり、以下のような一つの情報ネットとなっている。

鎭鄧島には多くの仕事の機会があり、また彼女たちの間では、利益上の競争関係がない。かつ、異郷で生活するときの孤独感を弱めるために、積極的に同郷の人に鎭鄧島の生活を推奨しながら誘う。当初、情報ネットは口頭で拡張していった。例えば、Dさんは町の定期市に買い物に行ったとき、偶然に鎭鄧島で仕事したことがあるXさんと会った。Xさんとは面識はなかったものの、DさんはXさんから情報をもらった後、鎭鄧島に出稼ぎに行った。Dさんは実家に戻っているうちに、村民に鎭鄧島の漁村の仕事の利点を口頭で勧めた。そして、村民の間で情報がやり取りされるという初期の情報ネットが形成された。情報をもらった村民たちは帰省した際に、電話などの口コミにより、他の村の村民に推奨する。すると、村と村の間に情報のつながりができる。そこで、村民と村民、村落と村落の間で互いに鎭鄧島のことを推奨するようになり、その範囲が拡大していった。情報ネットの範囲は人と人、村と村から都市と都市まで広がっていく。こうして、図3のように、最終的には鎭鄧島を中心とする放射状の情報ネットとなり、その範囲はますます大きくなる。立崗村は押崗村の隣の村である。紅山廟村は押崗村と同じ県に属しているが、近くではない。情報ネットの形成に従って、全河南省に渡って情報がもらえることが分かる。河南人はそれを利用し、互いに助け合い、深くつながっている。例えば、仕事の連絡、実家に戻るときのチケットの準備などは情報ネットに任せる。村の女性たちは、ほぼDさんを信じているので、Dさんは村の女性たちのリーダーのような存在となる。仕事を探したいときは、情報ネットを利用し、Dさんに連絡して頼むのが通常である。また、

もし誰かが良い仕事の機会をもらったときは、情報ネットを利用して労働者を募集する。

### (3) 河南女性農民工の特徴

河南女性の年齢分布は以下のようである（拒否した4人も含む）。

図4で分かるように、調査した河南女性の年齢内訳は、30代が3人、40代が5人、50代が11人、60代が3人となっている。50代が一番多く、70歳以上と30歳以下の人はいない。

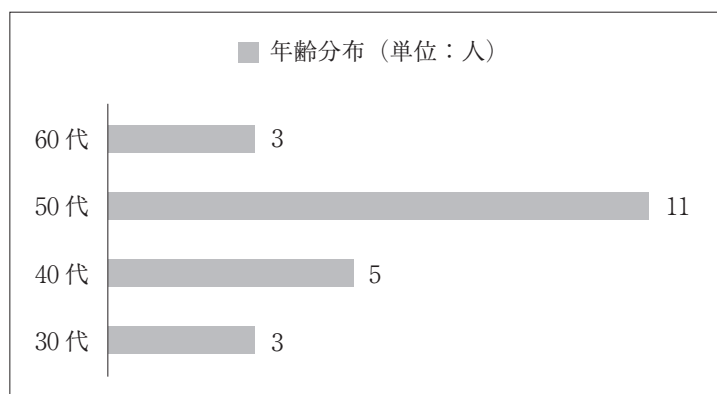


図4 河南女性の年齢分布（筆者作成）

Dさんによると、2010年以前には島東構村に行く女性のうち、

20代の若い女性の方が50代の女性より多くいたという。2010年以降、漁村に行くより、都市の方に行く若い女性が徐々に多くなる。彼女たちは工場、飲食店などで働く。都市には多くの働く機会があり、より豊かな生活を送れるようになるので、彼女たちにとって漁村より都市の方が魅力的である。

海水に塩分が含有しているため、昆布の収穫や、テングサの養殖、ナマコの収穫などの海に関する仕事は手、特に指に悪い。長時間が経つと、皮膚が腐食される。男性が海に出て漁業をするとき、浜辺の仕事は女性だけに任される。昆布を収穫する季節には、夜2時に起き、仕事を始める。朝6時までに、海から集められた昆布をトラクターで干し場におろす。昆布は、整然と列をなす（写真2）。昼12時に干した昆布を集め、新収穫の昆布を干す。雨の日に休み、晴れた日に働くと、1カ月で5千元（10万円ぐらい）の給料になる。海に関する仕事は、苦労は多いが、専門の知識と技能がなくてもできる。

都市の工場なら1カ月で4千～5千元がもらえ、漁村より楽である。Dさんは「50歳の私たちは教育レベルが低いし、家事と農業以外何もできない。年齢的にも不利な状況なので、都市の農民工をするのはもう無理だ」と話す。女性は都市に働きに行きたいが、年齢の関係で50代以上の女性たちは都市で仕事するのは難しい。そのため、お金を稼ぎたい彼女たちは漁村に行く。



写真2 干す昆布の様子（筆者撮影）

は都市で仕事するのは難しい。そのため、お金を稼ぎたい彼女たちは漁村に行く。

Dさんは島東構村に定住している。しかし、鎭鄣島以外の漁村、もしくは島により良い仕事の機会があれば、Dさんは女性農民工を連れて、鎭鄣島外に働きに行く。「私はリーダーだと認められ、彼女たちを連れてここに来ているので、彼女の生活と仕事に責任がある」とDさ



んはいう。したがって、河南省女性農民工の住所は安定していても、仕事の場所は固定ではない。もちろん、逆に島外から鎭鄒島に来て仕事をする河南省女性農民工もいる。

彼女たちはどのような辛い仕事でも、最後まで我慢してやり遂げ、中途半端にしない。「お金を稼ぐためには、文句をいわない」とDさんはいう。

以上のことから、現在の河南女性農民工の特徴を以下5点にまとめることができる。

- ① 年齢が高い。
- ② 教育レベルが低い。
- ③ 専門技能を身につけていない。
- ④ 過酷な労働に耐える。
- ⑤ 流動性が高い。

#### (4) 差別されている彼女たち

##### ① 差別の表現

###### ・言葉差別

アンケート調査の結果によると、「村民たちに差別されたことがありますか」という質問について、「はい」と回答したのは14人、「いいえ」と回答したのは4人であった。「どのように差別されていますか」という質問について、「西から来た人と呼ばれる」と答えたのは14人、すなわち前の質問に「はい」と回答した全員である。「人から白目で見られる」と回答したのは10人、「陰で悪口を言う」と答えたのは8人であった。つまり、「西から来た人と呼ばれる」というのが、ほぼ河南省の女性たち全員の経験だといえる。だが、「西から来た人」という言い方は、表面的には、普通の表現である。なぜ「差別」的な意味を持っているのだろうか。

村民たちに聞くと、鎭鄒島には河南省から来た人たちに対して、特別な総称があることが分かる。すなわち「西から来た人（方言で「シブライズ」）」である。この総称がいつからあったのかについて、村民たちは分からないという。たぶん山東省栄成市は山東省の最東端にあり、現地の人にとって、中国の他の地方から来た人は全て西部からの人と認識するため、「西から来た人」と呼ぶのであろう。河南省の人を話題にすると、村民たちは「あいつら西から来た人」などと悪い言葉を言いながら冷たい目で見ると、嫌いな感情がすぐに湧き出てくる」と村民はいう。また、誰かのものが紛失すると必ず「西から来た人が盗んだのだろう」と叫ぶ村民も多くいる。村民の話しぶりと表情から推測すると、おおむね河南省の女性の答えが実情に合っていると考えられる。

###### ・結婚禁止

「村民たちに差別されたことがありますか」という質問について、「はい」と回答した14人のうち3人は「現地の人と結婚することは許されない」と話す。例えば、以下の例のようである。

Wさんの事例：Wさんは1982年に生まれた。中学校を卒業した後、農作業をした。2005年、20歳のときに、結婚の予定がなかったため、母と一緒に島東構村に来て日雇い仕事を始めた。その後、島東構村の村委員会で倉庫の管理人Cさんと恋愛関係になった。だが、Cさんの両親は、Wさんが

河南人であるということだけで、2人の結婚を許さなかった。Cさんの父は非常に怒り、病気で入院した。2人は仕方なく別れようとしたが、本気で愛し合っていたため、ひそかにデートを重ねた。後にWさんは妊娠した。それでも、Cさんの両親は2人の結婚を許さなかった。Wさんは我慢して息子を生んだ。Cさんの父は病気で死んでしまった。2人が執拗にせがむので、Cさんの母は2人を許すよりほかなかった。Cさんの息子が2歳になったとき、2人はついに結婚した。

Wさんの例から、村民が彼女たちを、いかに差別していたかが見える。貧乏なところから来た人は、お金のために現地の人と結婚したがることがある。そういった場合には、彼女たちを信じなく、結婚することが許されないのも当然だろう。ところが、Wさんの場合、彼女が河南人であるということだけで、結婚が許されなかったのである。差別される度合いが高いといえるだろう。

## ② 差別の原因

### ・河南人に関するマイナスの記事

「新聞とニュースには河南人のせいで悪質な事件が発生することがよくある」と村民は言う。インターネットには以下のような話が載っている。

「十亿农民九亿骗，河南人是总教练，总部设在驻马店（10億の農民には9億のペテン師がいる。河南人はペテン師の総コーチであり、本部が駐馬店（河南省地名）にある——筆者訳）」

2005年、深圳市龍新交番に「河南籍の恐喝ギャングに打撃を与える」と「河南籍の詐欺ギャングを告発すると、500元の奨励金がもらえる」という二つの横断幕がかけられた（写真3）。龍新交番の警察官は犯罪者の出身地について分からなかったが、河南籍の人物を代表として書いたという。横断幕をかけた後、犯罪率が下がったので、民衆はやはり犯罪者は河南人だと思った。胡秋含は2012年の『人民日報』、『南方都市報』、『新京報』などの中国新聞に掲載されたニュースデータと河南省に関するニュースを分析した上で、河南省に関するニュースは、ほぼマイナスニュースだという結論を出した（胡秋含2013）。「われわれの注意が及ぶ領域はかなり狭く限られているが、その領域外の社会をどれだけ支配できるかは、生活上のさまざまな規準を設定できるかどうか、官吏や工場監督たちの行為を評定する監査方法を考案できるかどうかにかかっている」とW・リップマンは述べている（W・リップマン2006）。マスメディアの、ある地域に対する報道は、その地域とそこにいる人物を評価する拠り所となっている。テレビ、新聞などのニュースはまるで政府筋のニュースのようである。



写真3 龍新交番の横断幕 (<http://news.sina.com.cn/c/2005-05-03/00276551325.shtml?from=wap>)

「地域歧视中最突出、最常见的就属于“外地人”歧视（地域差別の中では、よそ者に対する差別が一番よく見られる——筆者訳）」と張皓星は指摘する（張皓星2014）。河南省の女性がよくよそ者だということが、島東構村の村民が彼女たちを差別する原因だといえる。漁村の村民は自分たちとは異なる地域の文化・経済に対し、あまり寛容とはいえない。河南省女性農民工に対する当初のイメージはテレビ、新聞などのニュースによってもたらされ

た。村民たちは、河南省の女性が来島する前には、河南省に関するマイナスニュースを、スターの囲み記事と同じように受け取っていた。だが、ニュースで見た河南省の農民工が、現実として自分たちの前に現れると、島民たちはとてもショックを受けた。マイナスニュースによって悪いイメージをつくられた河南省の人たちを信用することは難しい。村民と河南省の女性たちは互いに信頼できず、差別が生じた。村で悪いことが起きると、村民は「きっと河南省の人がやったにちがいない。彼女たちはペテン師だから」と言うことが多い。

#### ・河南人に対する貧乏人というイメージ

村民は、河南省の経済レベルは低いというイメージを強く持っている。河南省は中国の中部地区にあり、農業を中心としているため、他の形の経済収入があまりない地域である。『中国新聞週刊（北京）』には「作为传统“粮仓”的河南，则仅仅是被国家发展战略定位为“确保农业基础”，其开放程度在中部六省中最低，2006年末的数据显示其开放指数仅为2%，远低于国内平均水平。该省人口基数居全国之首，而平均国民生产总值低，人均资源少，教育落后，外出务工农民工多，中产阶层和文化阶层的比例也很小（王晓易 2012）（小穀倉地帯とする河南省は開放程度が中部6省で最も低く、2006年までの開放指数は2%であり、国内平均値以下である。一番人口の多い河南省はGNP<sup>(3)</sup>が低く、人口1人当たりの資源は少ない。教育が立ち遅れ、農民工が多く、中産階級が少ないなど、多くの問題がある一筆者訳）」と述べられている。

経済発展が急速に進む中、河南省の経済もよく発展している。だが、河南省の経済はいまだ島東構村より低いレベルにある。ちなみに、河南省の女性は毎日「稀飯」を食べる。河南省の「稀飯」は小麦粉をそのまま水に入れ、かき回した後、沸かした湯に入れるというやり方で作られる。一方、村の「稀飯」は米、豆やトウモロコシの種などを材料とする栄養豊かなお粥のようなものである。村民たちにとって、河南省の「稀飯」を見るのは初めてであった。そうした小麦粉で作られた「稀飯」は飲むことはできても、決しておいしいものではなくまずいものと思われた。比較的、豊かな村民はいつも「あいつら西から来た人は貧しいところから来て、私たちのお金を持っていく」とこぼす。

#### ・河南省女性農民工の教育レベルに対する驚き

図5を見ると、調査対象としての河南省女性農民工には非識字者が9人、小学校程度の人が12人、中学校程度の人が1人であり、比率がそれぞれ41%、55%、4%となる。河南女性の低い教育レベルが見える。一方、島東構村における女性の中の非識字者は90代の女性である。70代と80代の女性は小学校で6年間、勉強しており、60代以下の女性はほぼ中学校を卒業している（図6）。また、大学に在学している20代の若い女性が3%を占める。河南省女性農民工の教育レベルと比較すると、島東構村における女性たちのレベルはかなり高いことが認められる。

島東構村における女性には非識字者が3人、小学校程度の人が61人、中学校程度の人が63人、大学程度の人が3人であり、比率がそれぞれ2%、47%、49%、2%となる。この大学程度の3人は村民の娘であり、島外の大学に入学するので、直接的に調査されていない。3人の教育レベルは彼女たちの両親からもらった情報である。

河南省女性農民工の教育レベルの低さに対して、村民たちは大変驚いた。特に若い非識字者が学校

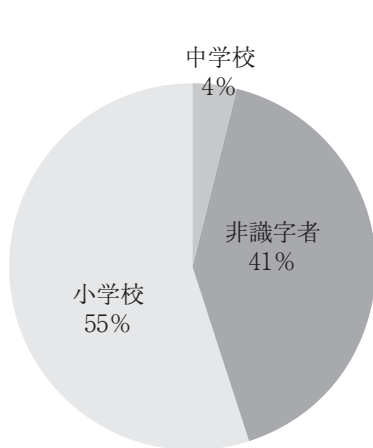


図5 河南女性の教育レベル（拒否した4人も含む）（筆者作成）

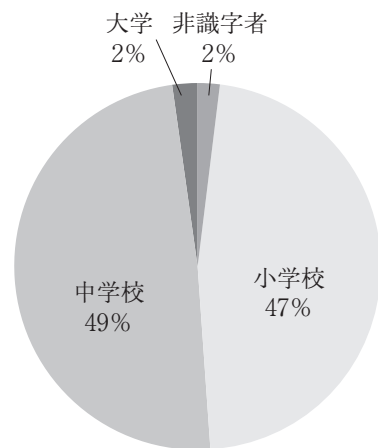


図6 島東構村における女性の教育レベル（筆者作成）

に行かなかったということが理解できなかった。河南省女性は教育レベルが高くないので、農民工になるしかないという村民は考えている。そして、実際に河南省女性農民工は島の一番汚く苦しい仕事を行っているため、農民工はお金がなく、社会地位が低いというイメージを強く持たれている。

村民たちは河南省女性農民工の教育レベルを知った後、教育の重要性をより強く認識した。村民から「河南省の人は教育レベルが低いからペテン師が多い」、「河南人は教育レベルが低いから島東構村に来て辛い臨時雇いをする」などという返答があった。

### ③ 差別の弱まり

#### ・ペテン師というイメージの変化

当初、村で窃盗事件があると、「きっと河南省の人がやったにちがいない。彼女たちはペテン師だから」と言う村民が多くいた。しかし、事実の真相が明らかになると、窃盗を働いた人は河南人ではなかった。

村民たちに聞くと、90%の村民は、河南省の女性たちは、大変な労苦に耐え、辛酸をなめながらも、骨身を惜しまずに働くというイメージを持っている。普段の生活では、ただ積極的に仕事し、生活のために頑張る様子しか見えない。河南省の女性たちは、日々のお金を稼ぐことで頭がいっぱいだという。例えば、海鮮売買の人は毎日、鎭鄧島にアサリ、巻貝などをとりに行く。彼女たちは干潮のときには、1人1日で巻貝を50kg程とることができる。女性にとって、50kgの巻貝は大変重い。彼女たちは防水服を着、満潮になったとき、海水の浮力を利用しながら50kgの巻貝を海岸に運んでいく。

村民は以前のマイナスニュースを信じ、河南人がペテン師や泥棒であると勘違いをしていたので、河南人に対して少し恥じ入るようになる。また、河南女性が生活のために苦勞に耐える様子を見ると、村民は心から彼女たちを敬服するようになる。

今、村には河南省の女性と結婚している人が3人いる。女性の年齢は37歳、38歳、40歳である。37歳の女性Lさんは河南省の紅山廟という村から来た。島東構村で働きたいと思い、紅山廟に戻りたくなかったため、紅山廟にいる夫と離婚した。息子2人は紅山廟村でお爺さんと一緒に生活している。彼女は以前、正月には紅山廟村に戻っていたが、島東構村の人と結婚した後は、正月にも戻らな



くなった。2016年、Lさんは息子2人を島東構村に連れて来て、新たな家族と生活を始めた。現在では、村民が河南省の女と結婚しても陰で悪口を言わなくなり、黙許している。また、独身の男性に独身の河南省の女性を紹介することが特別なことではなくなっている。

・生まれ故郷を離れる彼女たちに対する同情

「村民たちに差別されたことがありますか」という質問に「いいえ」と回答した4人に「なぜですか」と聞くと、「現地の人は良く援助してくれる」という回答があった。この4人は2014年以降に来た人である。他の14人も「最初は、確かに差別された感じが強かったが、最近はよく助けてくれる」と答えた。河南女性は仲間同士、一緒に故郷から鎢鄧島に行ったが、島では1人で部屋を借り、各々1人で暮らしている。当初、村民は「稀飯」のことで河南女性を嘲笑した。しかし現在では、生まれ故郷を離れ、1人で暮らしている彼女たちに対して、村民は同情を感じている。例えば、老人は体力の衰えによって放棄した土地を彼女たちに無料で貸す。そうすると、彼女たちは土地を利用し、農産物を植える。鎢鄧島の土地は1人当たり1ムーの畑と狭いが、彼女らにとっては十分だ。また、村民はマントウ、餃子などの料理を作ると、その半分程度を彼女たちにお裾分けする。

・河南女性農民工に対する依存

調査によると、在住女性の年齢は以下の表のとおりである。

表3 在住女性の年齢分布

年代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代
人数	4人	1人	8人	42人	33人	26人	13人	4人

(筆者作成)

表3から見ると、30代の女性は1人しかおらず、50代の女性が一番多くいる。20代の4人は大学に在学しているので、冬休みと夏休みの時期だけ、島東構村に戻る。漁村社会は高齢化社会に入ることが分かる。勉強がよくできる女性たちは大学に入学して、島東構村から出て行く。しかし、彼女たちは大学を卒業した後も、島東構村に戻らずに都会で仕事する。30代と40代の一部の女性は、漁村での仕事の機会がない。また、漁村より、都市の生活と便利さに憧れ、漁業の仕事より都市の工場などの仕事をしたいと考えている。そのため、漁村を離れ、都市に出稼ぎに行く。60代以上の女性は心臓病など重大な病気を持っていたり、労働能力が低くなったりして、漁業に関する仕事をやめる。働ける女性は40代と50代になるが、彼女たちも仕事と金より、自分自身の体と健康がもっと大事だと考えているため、やはり、漁業に関する仕事はやめることになる。

島東構村では、漁業を盛んにするためにも労働力が必要であるが、漁業の仕事を希望する島の女性は少ない。河南女性の来島は、女性労働力を補充したといえる。当初、河南省女性農民工は鎢鄧島の島民に差別されていたが、現在、海に関する仕事は、ほぼ彼女たちが行っている。したがって、現在の村では河南女性農民工と離れることはできず、彼女たちに対する依存度が高くなっていることが分かる。

## (5) 未来の計画

「未来の計画」という質問について、「実家に家を買う」、「現地に家を買う」、「分からない」などの答えがある。「実家に家を買う」と回答したのは10人、「現地に家を買う」と答えたのは6人、「分からない」と回答したのは2人であった。そして、18人のうち8人が「両親を連れて現地で生活する」とも回答した。

「両親を連れて現地で生活する」と回答したHさんは2009年に夫と一緒に島に来た。2015年、実家で新しい家を作った。Hさんと夫は島東構村で働き、息子は実家の母に頼み、面倒をみてもらっていた。2016年に息子と一緒に島東構村で一緒に生活を始めた。息子は現地の学校に転校した。Hさんの夫は漁業の知識を勉強したり、漁船技術を学んだりしてから、2017年にサンパン（船）1隻を買った。Hさんの父が亡くなった今、母は一人暮らししているので、安心はできない。そのため、Hさんと夫は一生懸命働き、早めに母を連れてきたいと思っている。

「90年代、実家の村では男性が徐々に村を出て、都市で仕事をし始めたので、村は女、子供、老人だけの生活になった。2000年以降は、女性も村の外で仕事を始めたため、村には子供と老人だけが残った。山東省は学校教育に熱心だから、今私は子供を連れてここで生活して、子供は現地の学校に行かせる。実家のある村は子供が少なくなり、ゆくゆくは老人の村になってしまう」とWさんは話す。アンケート調査によると、河南女性はほぼ1年に1回、すなわち新年正月に、実家に帰る。実家の家には誰も住んでないので、草が生い茂り、もう住むことができなくなる。

なぜ実家に家を買う（買った）のかと聞くと、Hさんは「私たちはいつもここに属していないと感じている。今は若いから努力してお金を稼ぐ。年をとったら、実家に帰るつもりだ」と回答した。Dさんは現地の方言がうまく話せる。彼は戸籍を島東構村に転入させた。「帰りたいと思っているが、今は差別されなくなっているので、島東構村に住みたい」と話した。「未来の計画」という質問に「分からない」と回答した2人は、実家に戻るか定住するか決めてないという。

彼女たちの答えは両極化していることが分かる。すなわち、一部の人は島東構村への帰属意識が弱く、島東構村で漁業活動に参加するのは、ただお金を稼ぐためである。新年、谷雨（穀雨）、龍王誕生日<sup>(5)</sup>に、龍王廟に行くのは、ただ村民をまねる行為であり、心から島東構村の龍王を信じているのではない。農民工である彼女たちは不安な気持ちで、落ち着かない。彼女たちにとって、島東構村はお金を稼ぐための場に近い存在であると思われる。一方、一部の人には定住希望がある。現地は生活環境がいいし、仕事の機会もある。また、差別も弱まっている。そのため、島東構村に愛着を持つようになり、家族を連れて島東構村に住みたいと考えている。

## Ⅲ 漁村における女性の労働意識の変化

### (1) 労働量の減少

#### ① 家事の減少

##### ・家庭電器の普及

島東構村では、表4と図7から分かるように、テレビの普及率は100%に至り、冷蔵庫の普及率は年齢によって少しの変動があるが、80%以上を維持する。洗濯機の普及率は年齢が上がるに連れて

表4 島東構村における家庭電器の普及率<sup>(6)</sup>

	テレビ	冷蔵庫	洗濯機
30代	100%	100%	100%
40代	100%	100%	100%
50代	100%	100%	74%
60代	100%	100%	30%
70代	100%	88%	19%
80代	100%	92%	8%
90代	100%	100%	0%

(筆者作成)

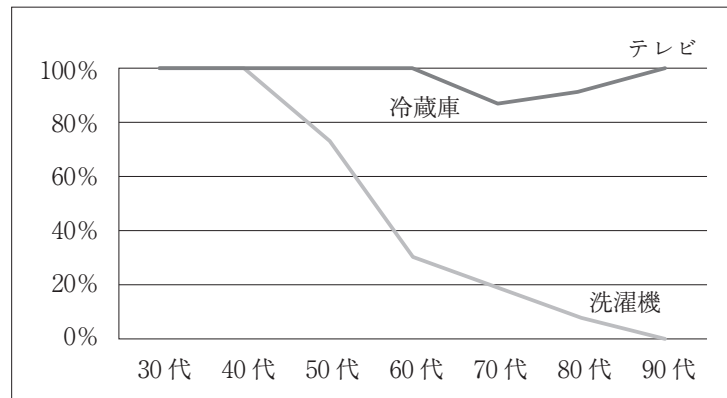


図7 島東構村における家庭電器の普及率グラフ (筆者作成)

低くなる。なぜテレビと冷蔵庫の普及率が高いのであろうか。2007年に「家電下乡」という政策が公布された。「家電下乡」という政策は2007年12月から、山東省、河南省、四川省の三つの地域の農村で家庭電器の販売を試みた政策である。農民（漁民を含む）がテレビ、冷蔵庫、携帯電話を買ったときには、家庭電器の価格の13%が購買者に還元された。この政策も普及率向上の原因の一つだと思われるが、もう一つの原因は漁村の経済の発展だと考えている。島外の南港頭村、西南海村など五つの農村での調査によると、鎮鄒島の経済状況は良く、島民が裕福に暮らしていることが分かる。洗濯機の普及率は、50代以下の家庭では高いが、60代以上では低い。「普段は手洗いで衣服を洗濯する。手洗いが洗濯機より服をきれいに洗濯できるから、洗濯機があまり必要ない」と村民Lさん（65歳）はいう。「洗濯機がとても便利だ。洗濯機を利用すれば、時間を節約できるし、つらくなくなる」と村民Zさん（47歳）が話す。60代以上の村民も家庭電器の実用性を重んじてはいるが、50代以下の村民は家庭電器の利便性をより一層重視している。

#### ・家事労働の分担

島東構村における調査結果によると、家事は主に女性に任せるが、ある程度の家事を分担する男性が半分以上を占める。例えば、部屋の掃除、オンドルの暖めなどを行っている。島から島外に引っ越した島民は子供が生まれた後、自分の両親もしくは舅と姑に頼み、子供の面倒をみてもらう。面倒をみるのは女性だけではなく、男性もいろいろ手伝っている。例えば、順番で子供の通学の送り迎えをしたり、子供を連れて買い物に行ったりする。また、女性が病氣中のときにだけ、家事を分担するというのではなく、普段から、男性が家事をすることも多い。このように家事労働を分担しているため、男性は家庭内のことに対する参加度が高いといえる。

家庭電器の普及と男性の家事に対する分担が進むにつれて、女性が毎日の家庭内の料理・洗濯・掃除などの労働をすることが少なくなり、自由な時間が多くなる。

#### ② 農業労働の減少

鎮鄒島の農耕地は少ない。昆布養殖が盛んなため、島民は土地の一部を、昆布の養殖者に干す場所として貸している。特に老人はほぼ土地を貸しているため、自分の農耕地は住宅の中庭、または住宅の近くにある2分の土地しか残らない。昆布を干す場所として利用される土地は、そのまま使うので

はなく、土地の表面に海岸の砂浜の砂を敷いて使用する。長年経つと、昆布についた海水が土地の中にしみ込んでくる。また、砂と土地の土壌が混ざってくる場合もある。昆布を干す場所として利用されたことがある土地は、農耕地に戻らない。土地を貸す漁民は1年間で1400元の収入になるため、農業をする時間は少なくなる。

### ③ 漁業労働の減少

漁業の労働市場は、閉鎖性が強く、新規参入を受け入れにくい特性を持つ（有路昌彦 2000：131）。以前は、現地の人を中心とする島東構村の労働市場は比較的安定していた状態であったが、河南女性農民工の来島はこの状態を打ち破った。当初は、「河南女性が来ると、私たちの仕事を奪わないだろうか」と思った現地の女性は多くいた。しかし、若者が進学、もしくは出稼ぎで島に離れるにつれて、漁村内の新規漁業就労者は大幅に減少し、労働者不足を招いている。また、漁村内での、高学歴化により、漁業への新規就労者数は減少している（有路昌彦 2000：132）。昆布養殖・収穫の季節になると、大量の労働力が必要である。現地での労働力の不足により、村民はわざわざ、河南省の農村に女性農民工を招聘しに行く。また、Dさんのような農民工のリーダーに頼み、鎭鄧島のことを推奨してもらい、女性農民工を招く。そうしたことにより、河南省の女性農民工は徐々に漁村漁業労働力の主力となり、現地の女性の漁業労働は受動的になり、減少するようになる。このように、島東構村では、漁業の労働市場の開放性は強くなった。

## (2) 漁村における女性の労働意識

### ・女性労働意識の現状

島東構村における女性の労働現状を見ると、漁村女性の労働が少なくなっていることが分かる。漁村女性は労働からある程度、解放されているともいえる。では、漁村女性の労働意識はどうだろうか。

WSさん（35歳）の事例：「主人は遠洋漁業に従事している。私は仕事をしていない。洗濯機など家庭電器があるので、家事はしやすい。毎日息子の面倒をみながら、麻雀をしている。夕方には、村の女性たちと一緒にフィットネス体操をする。海に関する仕事は、したくない。海の仕事は手、特に指に悪い。河南女性がいるから、彼女たちに任せればいいんじゃない。彼女たちは一生懸命に仕事するから」

WQさん（40歳）の事例：「主人は村のナマコ養殖池の管理人を担当している。ナマコ窃盗を防ぐために養殖池のそばに臨時住宅を建てた。中学校の寮に住んでいる娘は学校に行った後、私は主人と一緒に養殖池の臨時住宅に住んで、夜になっても家に帰らない。養殖池を管理する仕事はあまり忙しくなく、楽である。主人1人の給料は、私たちにとって十分だと思う。昆布の収穫、植え付けなどは、大変苦勞の多い仕事であり、体に良くないので、したくない」

Bさん（63歳）の事例：「去年息子が村に戻り、テングサ養殖をやり始めた。都市で他の仕事に携わる息子に頼まれて、養殖用のロープを整理したり、結び目を作ったりした。また、孫の世話をするのも私の仕事であり、毎日午後2時に学校に孫を迎えに行っていた。忙しかった。でも、私は、実はしたくなかった。63歳になると、もう老人だ。健康が大事だと気付き、今は毎日のんびりして過ごしたいと思う。でも、息子のために、仕方がなかった」



WSさん、WQさんとBさんの事例を見ると、島東構村における女性は労働したくないということが分かる。現地の女性は労働意欲が弱いといえる。30代の女性の中には、夫が遠洋漁業をしている人が多くいる。彼女たちの一部は島外に引っ越し、都市部で暮らすにつれて、島に住んでいる人は少なくなる。彼女たちは労働を重視していた生活から、楽しみを大事にする生活へと転移している。WSさん、WQさんとBさんの事例で、現地の女性たちが自分の体をより大切にして、健康を重視していることがうかがえる。

#### ・女性労働意識の変化および変化の原因

村では海の仕事を、苦勞の程度によってクラス分けをしている。一番苦勞な仕事は昆布を収穫し、干すことである。現地の女性はいずれにしても行わない仕事である。そのため、昆布の収穫の季節になると、島民はわざわざ河南省の農村に女性農民工を募集に行く。次はテングサと昆布の苗を植える仕事である。現地の女性は経済的に困ったときにだけ、河南女性と一緒に仕事をする。次は船を操縦し海産物を捕る仕事である。安全のため、女性はほぼ夫と一緒に海に行く。帰ってくると、魚などを売買する。船の危険性がかなり高いので、船が操縦できる河南省の人に任せる現地の人が多い。養殖池を管理する仕事は、危険性がなく、給料も高く、気楽な仕事なので、ほぼ現地の人が行っている。

河南女性が島に来るまでは、現地の女性は積極的に労働に参加し、家庭のことをしながら仕事に従事した。さらに大いに意気込み、努めて高い目標を目指した。河南女性は初来島のとき以来、労苦に耐え、仕事効率が高く、昆布を晒す仕事をするなど、現地の労働市場に重要な地位を占めてきた。現地の人が彼女たちを差別した原因はもう一つある。一方では現地女性は河南女性に労働機会を奪われたと思うが、他方では海水養殖がますます盛んになると、現地の労働力だけでは養殖業を満足することができない状況になる。すなわちこの矛盾を解決できない悔しい気持ちで、現地の人が彼女たちを差別した原因の一つだと考えている。

それゆえ、現地女性は、当初、労働量の減少を受動的に受け入れた。こうして、労働量は減少し、女性の余暇の時間は多くなった。時間を潰すために彼女たちはテレビを見たり、マージャンをしたりした。さらに自分の趣味を見つけて励んだり、自分の健康を重視したりする。フィットネス体操は時間を潰すために誕生した。現在、現地女性は体を養生する意識が強いため、身体を害する漁業労働はあまりしたくないと考えている。現地の人はもう河南女性を離すことができなくなっている。現地の人が河南省の女性農民工に頼る過程は、河南女性に対する差別を弱める過程であったといっても過言ではない。現在では現地労働市場において重要な地位を持っている河南女性、および河南女性によって引き起こされる労働量の減少に対して、現地女性は能動的に享受するようになる。したがって、現地女性の労働意欲の減少は受動的→能動的になっていると考えられる。

河南女性は子供を連れて暮らしているため、村の子供の人数は増加した。また、元村民が島外に引っ越した後、島の海草屋は使われず放置されていた。河南女性はその海草屋を借り、毎日片付けているため、海草屋の荒廃を避けることができる。村の人口が多くなり、労働力が十分になり、島東構村に新たな活力をつぎ込んだといえる。さらに、彼女たちは誰でも新しいDさんになる可能性がある。実家に帰ったときに島東構村の生活を推奨すると、新しい情報ネットを形成することができる。こうして、島東構村と河南省の女性には良い循環も形成できるだろう。

## おわりに

鎭鄧島に來た河南省の女性農民工は差別される表現、原因などからいうと、農民工の身分ではなく、河南省の地域に対する差別だと見える。しかし、Dさんの事例に「鎭鄧島以外の漁村、もしくは島により良い仕事の機会があれば、Dさんは女性農民工を連れて、鎭鄧島外に働きに行く」ということがある。労働力が乏しい沿海漁村における、労働力は漁業の保証だといえるので、報酬取得方面の差別をしないであろう。現在、戸籍制度で、彼女たちは現地に政治選挙権はないが、移動と住居の自由、人身の自由がある。また現地の老人は体力の衰えによって放棄した土地を彼女たちに無料で貸すということもある。彼女たちに対する差別の程度が確かに弱まっていると確かに分かる。

河南女性農民工に対する差別が弱まるにつれて、現地女性の労働意欲も弱まった。その最も大きな原因は、現地女性が河南女性、もしくは河南女性の労働に依存するようになったことにある。そのため現地の女性は徐々に河南女性の心まで受け入れていったのである。現地女性は受動的→能動的に労働量の減少を受け入れ、それに従って労働意欲は受動的→能動的に弱まっていった。現在、島東構村での差別はまだ存在するが、減少している。また、村民たちの彼女たちに対する援助も始まっている。今後、将来的に差別は消失するであろう。

ところで、本稿では河南省女性農民工を研究対象として調査を行った。今回の対象外であった男性と子供について、また、他の沿岸の漁村においても、「河南人」は差別の対象となるのか、なども併せて今後の課題として研究していきたい。

## 註

- (1) 流動人口が潮のように非常に多くいるという意味である。
- (2) Cさんの苗字は「滕」であり、アルファベットにより省略すれば、Dになるが、河南女性のリーダーDさんと区別するために、「C」でマークされる。
- (3) 中部6省とは河南省、山西省、湖北省、安徽省、湖南省、江西省の6省である。
- (4) GNPとは国民総生産である。
- (5) 鎭鄧島において、旧暦の6月13日は龍王の誕生日になり、龍王祭祀を行う。
- (6) テレビ、冷蔵庫、洗濯機は基本的な家庭用電器である。そのため調査の対象とした。
- (7) 土地の面積の単位、1分=1/10 ムー、1ムー=666.7 m<sup>2</sup>である。

## 参考文献（アルファベット順）

- 秋道智弥 1996 「東南アジア・オセアニアにおける小規模漁業と資源利用」『南太平洋海域調査研究報告』
- 有路昌彦 2000 「日本漁業の生産量減少要因に関する一考察——漁業者行動様式と生産関数分析——」『農林業問題研究』
- 陳倩 2010 「空間流動及理性选择——金融危机背景下农民工迁移的行动逻辑——」西北大学修士論文
- 費孝通著、小島晋治訳 1985 『中国農村の細密画——ある村の記録 1936～82』研文出版
- 胡秋含 2013 「负面新闻报道对河南形象的影响分析」鄭州大学修士論文
- 胡偉略 1998 「怎样看待沿海地区的人口涌入」『中国国情国力』
- 韓興勇 2006 「渔民就地转产转业问题与思考」『太平洋学報』
- Lippmann. W 著、閻克文、江紅訳 2006 『公众輿論』上海人民出版社
- 劉江橋 2015 「中国農民工の労働・生活と差別・不平等」金沢大学大学院博士論文

- 劉潔 2014 「海島漁村人口の社会流动研究——对山东省长島县漁村の調査——」 中国海洋大学修士論文
- 劉婷、李若横 2014 「从二元结构的农民工到完整的市民个体——略论农民工积分入户制度的意义与作用」『特区經濟』
- 孟青山 2010 「浅析工会开展农民工专项培训的模式」『北京市工会幹部学院學報』
- 邱国珍 2003 「从农民跨省务工看区域民俗文化的互动——以在温州务工的江西女性为例」『民俗研究』
- 荣成市寧津街道办事处 2008 『寧津』 威海市新聞出版社
- 宋立清 2006 「捕捞渔民减船转产问题的国际比较」『中国海洋大学学报（社会科学版）』
- 宋趙豐 2010 「劳动力市场农民工歧视的 ERP 研究」 浙江大学修士論文
- 高橋準郎 1991 「地域帰属意識について」『淑徳大学研究紀要』
- 山東省荣成市地方史志編纂委員会 1999 『荣成市志』 齊魯書社
- 王培安 2010 『中国流动人口发展报告 2010』 中国人口出版社
- 王晓易 2012 「地域歧视是怎么制造出来的」『中国新聞週刊（北京）』
- 楊国楨 2000 「論海洋人文社会科学の概念磨合」『厦門大学学报』
- 楊堅 2001 「关于沿海渔民转产转业情况的调查报告」『中国漁業經濟』
- 于清洋 1936 『牟平県志』 濟南山東印刷局
- 于洋 2012 「中国の弱者層と社会保障」『中国の弱者層と社会保障』 明石書店
- 張冬冬 2017 「农村劳动力转移对我国农村经济发展的影响」『山西農經』
- 張皓星 2014 「外地人歧视对工资差距的影响」『当代經濟科学』
- 中国農民工問題研究総報告起草組 2006 「中国农民工问题研究总报告」『改革』
- <http://news.sina.com.cn/c/2005-05-03/00276551325.shtml?from=wap>（『南方都市報』記者：豐雷）

## 資料 1

问卷调查 1（河南省女性农民工）	アンケート調査 1（河南省女性農民工）
1. 来镆鄯岛的原因是什么	1. 来島の理由と目的は何ですか
2. 从什么渠道得知镆鄯岛这个地方的	2. 来島のきっかけは何ですか
3. 年齢（2017 年）	3. 年齢（2017 年）
<input type="checkbox"/> 20 岁以下 <input type="checkbox"/> 20 多岁 <input type="checkbox"/> 30 多岁 <input type="checkbox"/> 40 多岁 <input type="checkbox"/> 50 多岁 <input type="checkbox"/> 60 多岁 <input type="checkbox"/> 70 岁及以上	<input type="checkbox"/> 20 歳未満 <input type="checkbox"/> 20 代 <input type="checkbox"/> 30 代 <input type="checkbox"/> 40 代 <input type="checkbox"/> 50 代 <input type="checkbox"/> 60 代 <input type="checkbox"/> 70 代以上
4. 学历	4. 学歴
<input type="checkbox"/> 没上过学 <input type="checkbox"/> 小学 <input type="checkbox"/> 初中 <input type="checkbox"/> 高中 <input type="checkbox"/> 本科及以上	<input type="checkbox"/> 非識字者 <input type="checkbox"/> 小学校 <input type="checkbox"/> 中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 学部以上
5. 会什么技术或者专业知识	5. 専門の知識と技能
6. 有没有受过本地人的歧视	6. 村民たちに差別されたことがありますか
<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 无	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
7. 受过什么样的差别对待	7. どのように差別されていますか
8. 对未来有什么打算	8. 未来の計画

## 資料 2

问卷调查 2（当地女性）	アンケート調査 2（現地の女性）
1. 年齢（2017 年）	1. 年齢（2017 年）
2. 学历	2. 学歴
3. 歧视河南省来的人吗？ 原因	3. 河南省の農民工を差別したことがありますか？ 理由
<input type="checkbox"/> 歧视   _____ <input type="checkbox"/> 不歧视   _____	<input type="checkbox"/> はい   _____ <input type="checkbox"/> いいえ   _____
4. 家里有电视、冰箱和洗衣机吗	4. 家にはテレビ、冷蔵庫、洗濯機がありますか
<input type="checkbox"/> 电视 <input type="checkbox"/> 冰箱 <input type="checkbox"/> 洗衣机	<input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> 冷蔵庫 <input type="checkbox"/> 洗濯機
5. 丈夫分担家务吗	5. 夫は家事を分担しますか
<input type="checkbox"/> 分担 <input type="checkbox"/> 不分担	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない
6. 家里谁种地	6. 誰が農業をしますか
7. 家里谁带孩子	7. 誰が子供の面倒を見ますか